

ベビリーフ販売、栽培研究

果実堂、カゴメと提携



カゴメと業務提携した果実堂の本社＝益城町

ベビリーフ有機栽培で国内トップの果実堂（益城町、井出剛社長）と、食品メーカー大手のカゴメ（名古屋）は16日、ベビリーフの販売や栽培研究などで業務提携したと発表した。果実堂が生産するベビリーフの一部を、来春からカゴメのブランドで全国各地に販売。両社は増産に向けた生産拠点の新設も検討する。

同日付でカゴメが果実堂に2億円を出資、主要株主となった。出資比率は10・63%。

果実堂は全国でベビリーフを販売しているが、各拠点地区にとどまっている。提携によってスーパーなど7千店以上のカゴメの販売先に販路を拡大できる。県内を中心に37畝で10期作を展開し、年間450トを生産して

熊本・九州
けいざい

いるのを、将来的には年間千トを目指す。カゴメは現在、販売する青果はトマトだけ。提携により、市場拡大が見込まれるベビリーフを自社商品に取り込めるメリットがある。両社は健康増進に役立つ機能性成分を豊富に含む栽培方法などの研究や、加工品の開発も、共同で行う。果実堂の井出社長は「両社は企業理念も近く、栽培や販売でしっかり連携できる」。カゴメ広報グループは「果実堂は有機栽培など付加価値の高い生産方法が魅力」としている。カゴメの2013年3月期の売上高（連結）は1962億円。果実堂は本年度、9億円の売り上げを見込む。ベビリーフはミズナやルッコラなど野菜の若い葉の総称。栄養価の高さと、そのままサラダで食べられる手軽さで需要が増えている。（太路秀紀）

25.12.17

熊日